

箱根国立公園

自然界への誘い 人はだれでも、自然のもつすばらしさ、人々の残してきた足跡を見たり感じたりしたいと考えています。この世に生を受けた時から、人の自然観は身体の成長とともに、成長を始めます。これまでに、多くの人々に潤いと安らぎを与えてくれた「箱根の自然」。都市生活の中で消えてしまった自然環境、地域社会のつながり、社会・文化が片隅に追いやりしまったものが、箱根には輝いています。この貴重な「箱根」を後世に残すことが、現在に生きる私たちの責任と役割であると考えています。



富士箱根国立公園
昭和11年(1936)2月、吉野熊、大山とともに富士箱根国立公園に指定され、昭和13年5月には、特別地域の指定も行なわれました。同年12月に箱根地域の区域が拡張され、昭和30年3月伊豆半島地域の区域も拡張されました。これに伴い、名称を富士箱根伊豆国立公園と改称。昭和39年(1964)に伊豆七島にも区域が拡張され、火山と海の公園として整備されました。

戦後は、東京近郊ということもあり、マイカー時代の到来によって日帰り観光客も増大し、

文を利用して刻み訴えかけました。昭和5年(1930)には、神奈川県知事を会長に、箱根の七つの町村と湯河原町、芦ノ湖畔町を始め民間団体が結集し国立公園化の運動気運が高まっていきました。しかし、富士山麓の陸軍演習地が指定地の問題となつたために、昭和9年3月の第一次(瀬戸内海・雲仙・霧島)、同年12月の第二次指定(阿寒・大雪山・日光・中部山岳)に富士箱根の指定は外れてしましました。近年、富士山が世界遺産の指定に際し、ゴミ問題がネックとなり指定が回避されました。世界でも著名な日本地形のシンボル富士山の景観について、考えさせられる事となりました。



湖尻、畠引山地区は、健全で快適な環境を確保し公共的な公園施設を置くことができる「集団施設地区」に指定されています。

箱根地域の地域区分(11,321ha)
特別地域
特別保護区 520ha
第一種特別地域 1,558ha
第二種特別地域 7,182ha
第三種特別地域 1,589ha
普通地域 472ha

箱根

国際的な観光地として、年間1900万人余の訪問客のある箱根。富士箱根伊豆国立公園は、東京・神奈川・静岡・山梨の一都三県にまたがり、関係する市町村の自治体は14市14町8村あります。この国立公園は富士(60,591ha)・箱根(11,166ha)・伊豆半島(22,439ha)・伊豆諸島(27,499ha)を合わせて121,695haにも及びます。

各地域に共通するものとして温泉があります。箱根も多くの温泉を抱えており、芦ノ湖や仙石原、大涌谷などの観光スポットも多く、宿泊施設、観光施設、高速道路や交通機関などがよく整備されています。更に特別地域は、第一種から三種までの重要性、保存性によって特別保護区に分けられています。開発、使用が一番厳しく制限される所で神山、二子山周辺、金時山周辺、仙石原地区がこの特別保護区に指定されています。

箱根は、信仰の山としても賑わってきました。箱根権現(現箱根神社)の創建を伝える巻物「箱根山縁起并序」(鎌倉時代初

期)によれば、第五代・孝照天皇の御代聖占人が駒ヶ岳に登り、神仙宮としたのが始まりといわれます。皇紀で二千数百年も前から続く歴史のある場所と言えるでしょう。現在も、箱根神社の元宮を祀る駒ヶ岳の山頂には、神々が降りてきたという馬降石や馬乗石など、古代人が崇拝した巨岩が並び、古代山岳信仰の靈場であったことを物語っています。

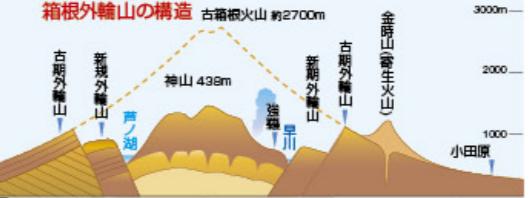
現在の箱根権現の創建は、奈良時代の山岳修行僧万巻上人に由来する757年(天平宝字元年)であります。関東の総鎮守として代々の武将に崇められてきました。源頼朝や徳川家康などの武将たちや庶民の信仰も集めてきました。山岳修行僧によって開かれた所だけあって、箱根山中には山伏峠や大峰、行者越などの地名が残っています。

江戸幕府が崩壊し、明治2年(1869年)、箱根関所・大名行列・宿駅が廃止されると箱根路を訪れる人は激減しています。東は多摩川、西は酒匂川迄しか自由に行き来ができなかった横浜港の居留地に住む外国人たちにとって、箱根は理想の保養地でありました。当初は、外務大臣に訪問申請を行ない、療養が学術研究の目的以外には箱根を訪れることができませんでした。明治8年(1875)になると権限が神奈川県知事に移り、温泉療養を理由に外国人観光客が増大しました。馬車道も湯本山崎まで通じ、明治13年(1880)には

箱根湯本まで人力車道が完成しています。急増する外国人に対して治安維持のため、箱根湯本・宮の下・旧箱根宿には巡査を配置して対処しています。明治11年(1868)には、早くも外国人観光客専用のホテルが誕生。明治20年(1887)、東海道線が国府迄開通、翌年には国府から箱根湯本駅までの馬車鉄道が開通し、東京から約4時間程で到達できるようになりました。しかし、馬に手間がかかるため、早くから電車にしようとする立案が出されていました。日本で最初に計画された電車ですが、計画段階で京都市電に先を越されました。源頼朝や徳川家康などの武将たちや庶民の信仰も集めてきました。山岳修行僧によって開かれた所だけあって、箱根山中には山伏峠や大峰、行者越などの地名が残っています。

江戸幕府が崩壊し、明治2年(1869年)、箱根関所・大名行列・宿駅が廃止されると箱根路を訪れる人は激減しています。東は多摩川、西は酒匂川迄しか自由に行き来ができなかった横浜港の居留地に住む外国人たちにとって、箱根は理想の保養地でありました。当初は、外務大臣に訪問申請を行ない、療養が学術研究の目的以外には箱根を訪れることができませんでした。明治8年(1875)になると権限が神奈川県知事に移り、温泉療養を理由に外国人観光客が増大しました。馬車道も湯本山崎まで通じ、明治13年(1880)には

文学 あきらめ(田村俊子)・青少(森鷗外)・真珠夫人(菊池寛)
春(島崎藤村)・箱根山(獅子文六)・蜜柑(永井龍男)・竹沢先生と云う人(長与善郎)・ハコネ用水(タカクラテル)・遠來の客たち(曾野綾子)・黒の試走水(梶山季之)・沈没(岩野泡鳴)
建築物 旧開院宮別邸 富士屋ホテル 福住旅館 樹木園休憩所 箱根プリンスホテル
名橋 旭橋 出山の鉄橋 八千代橋 芦川橋
探鳥地 芦ノ湖 仙石原 神山 駒ヶ岳



起きたたびに富士山と同じような成層火山として大きく成長していました。現在も残る外輪山の大きさから推定すると、25万年前には富士山と同様な円錐形をした2700~3000m級の成層火山であったと思われます。この活動の中頃には、金時山・幕山などの寄生火山も誕生しています。

第二期 (古期カルデラと楯状火山)
20万年前になると、激しい噴火を繰り返し、成層火山の中央部が大きく破壊され、鍋底状の凹地ができ上がる。これが古期カルデラで、カルデラの沈没から取り残された周囲の山のみを外輪山(古期外輪山)と呼んでいます。噴火口の直径(1kmを越えない)に比較して大きいのが特徴で、東西8km、南北12kmにも及ぶ。最初のカルデラ(古期カルデラ)形成時に生まれた稜線で、内側斜面は急勾配である。

交通機関の発達によって内外の研究者や文人客が多数訪れるようになり、自らの作品に箱根が登場したり箱根の自然や文化を語る作品も誕生しています。

箱根火山は神奈川県南西部にある代表的な三重式の複式火山です。箱根火山と呼ばれていますが箱根山という名の山は見当たりません。最高峰の神山(1438m)を始め駒ヶ岳・二子山・屏風山・明神ケ岳・金時山・など標高1000m前後の連山をまとめた総称です。

箱根火山の土台となる岩石が、

早川と須雲川の深い谷に沿ってみることができます。湯ヶ島層群、早川凝灰角礫岩、須雲川安山岩などとよばれている岩石です。いずれも1000万~2000万年前に、海底火山の噴火でできた岩石と推定されます。箱根火山は、約40~50万年前に活動を開始しており、新旧二つのカルデラと七つの中央火口丘を持っています。展望のよい箱根峠付近(古期外輪山)からは、芦ノ湖(カルデラ湖)や、中央火口である二子山、駒ヶ岳、神山と箱根の複雑な地形の成り立ちを見渡すことができます。

同じく大観山や長尾峠からの眺めからも火山の生い立ちを観測するのに良い場所であります。現在、箱根火山の活動は大きく分けて三期に分類し考えられています。

第一期 (成層火山の誕生)
約40~50万年前、現在の神山がある地域に最初の噴煙が上がります。活動を始めた箱根火山は、玄武岩質溶岩を噴出し、次第に珪酸分を高め、安山岩質溶岩を噴出するようになります。約20万年の間、噴火が

箱根関連年表

738年(天平10)淨定坊が湯本温泉を発見したと伝えられる。
802年(延暦21)富士山噴火、足柄路が陥灰によって埋没。箱根路(湯坂道)を開く。
805年(延暦24)坂上田村麻呂、蝦夷征伐の折り箱根権現参拝。
900年(昌泰3)足柄、碓氷の関所を通行手形によって通す。
1051年(承永6)源頼義、箱根権現に必勝祈願。(前九年の役)
1180年(承元4)源頼朝挙兵、箱根権現にかくまわれる。
1193年(建久4)富士の巻狩で曾我兄弟の仇討ちなる。
1194年(建久5)鎌倉幕府、東海道に新駅設置。駅夫定数定める。
1228年(安貞2)箱根権現全焼。
1380年(天授6)円覚寺造営のため、3年間期限で芦川宿に開所を設けて開闢を徵収。
1398年(応永5)宮ノ下で温泉発見。
1460年(長禄4)室町幕府、東海道の諸関を開收。
1590年(天正18)豊臣秀吉、箱根より全軍で小田原城を包囲。
1605年(慶長10)弾薙上人、塔ノ沢温泉を発見。
1619年(元和5)箱根宿に箱根関所が設置される。
1670年(寛文10)箱根用水が完成。
1680年(延宝8)徳川幕府、箱根八里に石塁を敷く。
1691年(元禄4)オランダ商館長、幕府参府に騎行し、ケンペルが箱根路を歩き動植物の観察、収集を行なう。
1764年(明和元)土産として箱根細工が盛んになる。
1826年(文政9)シーポルト、箱根を訪ね植物採集。
1878年(明治11)外国人専用の富士屋ホテル宮ノ下に開業。
1888年(明治21)国府津~湯本間に馬車鉄道開通。
1900年(明治33)小田原、国府津、湯本に電灯がつく。
1919年(大正8)箱根登山鉄道湯本、強羅間開通。
1922年(大正11)早雲山ケーブル開通。
1936年(昭和11)国立公園指定。
1956年(昭和31)箱根全山合併して、箱根町になる。
1959年(昭和34)箱根ロープウェイ開通。
1965年(昭和40)箱根ターンパイク開通。
1969年(昭和44)第二次箱根交通戦争解決。小田原厚木道路開通。
1972年(昭和47)大涌谷自然科学院、旧街道資料館オープン。
1976年(昭和51)仙石原に箱根湿生花園オープン。
1988年(昭和63)芦之湯フーラーセンターオープン。
1990年(平成2)森のふれあい館建設

